

様式 F-5-1〔記入例〕(電子申請システム対応用)

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)補助事業廃止承認申請書

平成29年12月12日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

〇〇大学・〇〇学部・教授 〇〇 〇〇 [印]

機関番号	1 2 3 4 5
------	-----------

研究者番号	1 0 7 6 5
-------	-----------

押印すること。

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)の補助事業について、下記のとおり廃止したいの
でご承認くださるようお願いいたします。

記

1. 研究種目名 基盤研究(C) (一般) 2. 課題番号 1 7 K 3 4 5 6 7

3. 研究課題名 〇〇の××に関する総合的研究

4. 交付決定額	5,460,000 円
うち 直接経費	4,200,000 円
間接経費	1,260,000 円

5. 補助事業期間 平成29年度～平成31年度

6. 助成金の使用状況

(1) 既受領額 (累計)	直接経費	1,400,000 円
	間接経費	420,000 円
(2) 支出済額 (累計)	直接経費	1,000,000 円
	間接経費	300,000 円

(3) 未使用額	直接経費	400,000 円	〔返還金額〕 520,000 円
	間接経費	120,000 円	

国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)以外の種目の研究課題において、廃止年度前年度までに受領した間接経費を執行済みの場合は、直接経費の支出済額の30%を超える分も間接経費の支出済額に含めて構わない(直接経費の支出済額の30%もしくは廃止年度前年度までに受領した間接経費のいずれか高い方となる。)

7. 補助事業廃止の発生年月日及びその理由

(退職等により所属機関の変更があるものは、応募資格の有無およびその変更先も記載すること。)

発生年月日	平成29年12月31日		
理由	平成30年1月1日付けで海外の研究機関に採用されるため、平成29年12月31日で現在の職を辞職することとなり、応募資格を失うため。		
応募資格の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	変更後所属機関	科研費指定機関以外

8. 変更交付決定額	1,300,000 円
うち 直接経費	1,000,000 円
間接経費	300,000 円

<対応事業>

基盤研究 (C)、挑戦的研究 (萌芽)、挑戦的萌芽研究、若手研究 (B)
基盤研究 (B) (平成24年度から平成26年度に採択された配分総額500万円以下の研究課題及び平成27年度以降に採択された審査区分「特設分野研究」の研究課題)
若手研究 (A) (平成24年度から平成26年度に採択された配分総額500万円以下の研究課題)
特別研究促進費 (平成29年度に採択された研究課題)
国際共同研究加速基金 (国際活動支援班、国際共同研究強化)

研究代表者が、補助事業を廃止する場合に 事前に 科研費電子申請システムにより作成し、所属する研究機関を通じて日本学術振興会に送信するとともに、紙媒体を1部提出すること。

- 紙媒体の作成・提出に当たっては、以下について留意すること。
 - ・ A4判(縦長)印刷を行うこと。
 - ・ 押印(または署名)をすること。研究代表者の印は、印肉を使用して押印するものとする。
 - ・ 本様式の作成時に誤入力があった場合には、改めて作成すること(訂正印及び修正液等の使用は認めない)。
 - ・ 右上に印字される版数と、科研費電子申請システムで最後に送信した版数は一致させること。
 - ・ 「交付申請書(様式D-2-1又はD-2-2)」の写を1部添付すること。その他、提出時に添付すべき書類は「様式提出時 添付書類一覧」を参照すること。
- 科研費電子申請システムにおける入力・提出に当たっては、以下について留意すること。
 - ・ 「電子申請システム研究者向け操作手引(交付内定時・決定後用)」(<http://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/topkakenhi/download-ka.html>)を参照すること。
 - ・ 文字化けの発生や別の文字として認識される場合があるため、JIS第1水準及び第2水準以外の文字コードや特殊フォントは使用しないこと。

補助事業廃止承認申請書情報の入力

1. 機関番号、所属研究機関、部局、職、研究代表者氏名等

研究代表者の所属研究機関がe-Radに登録した情報が自動表示される。内容に誤りを見つけた場合は、所属研究機関の担当者に連絡して修正すること。

なお、「部局」欄について、自動表示されている部局名が実際と異なる場合は、実際の名称に修正すること(部局レベルの所属がない場合は名称欄に全角スペースを入力すること)。また、「職」欄について、自動表示されている職名が実際と異なる場合は、実際の職名に修正すること。

「研究種目名」「課題番号」「研究課題名」「交付決定額」「補助事業期間」は自動表示される。

2. 助成金の使用状況

助成金の使用状況の金額については、所属する研究機関に確認した上で入力すること。

(1) 「既受領額(累計)」

本様式の提出時までには受領している助成金額が自動表示される。「支払請求書(様式F-2)」等を提出し受領を予定している助成金がある場合は、その金額も含めた額に修正すること。

(2) 「支出済額(累計)」

直接経費については、当該補助事業の支出額の累計額(利子(預貯金利息)を除く。)を入力すること。

間接経費については、支出済額(累計)(直接経費)の30%の額(円未満を切り捨て)を入力すること。ただし、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)以外の種目の研究課題の場合には、廃止する年度の前年度までに受領した間接経費の執行が終了している場合に限り、その額を含めた額(「直接経費支出済額×30%」もしくは「廃止する年度の前年度までに受領した間接経費」のいずれか高い方を間接経費支出済額とすることができる。)となるため、所属する研究機関に確認して入力すること。

なお、間接経費の支出額が直接経費の支出額(⑤)×30%を超えて入力する必要がある場合は、

「間接経費の支出済額が直接経費の支出済額〔⑤〕×30%を超える。」にチェックを入れること。

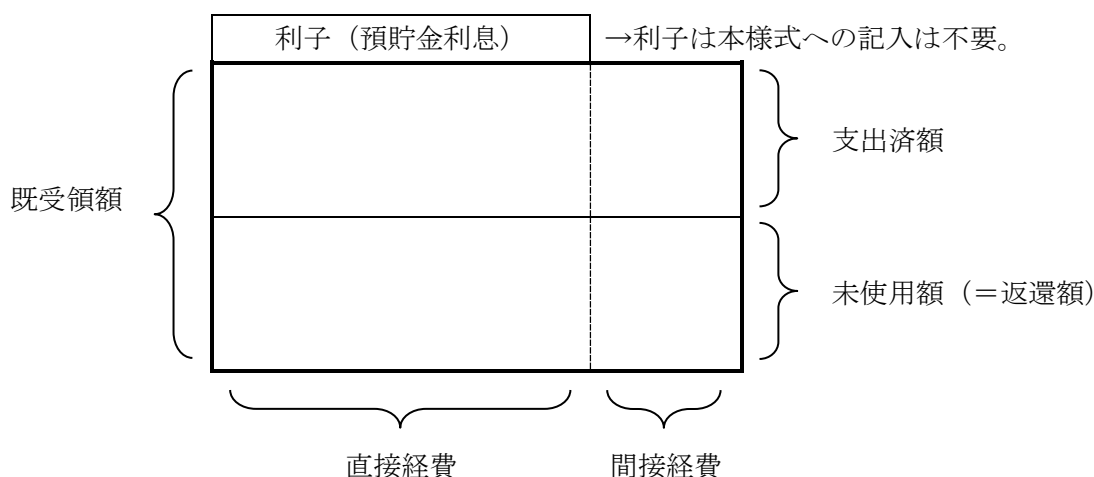
(3) 「未使用額」

[再計算]ボタンのクリックにより未使用額(=返還額)が自動表示される。

(4) 「確認事項」

助成金の使用状況の金額について所属研究機関に確認を済ませた場合、「助成金の使用状況」の金額については所属研究機関に確認した。」にチェックを入れること。

< 利子(預貯金利息)の考え方 >



- ※ 利子(預貯金利息)や解約利息が生じた場合は、交付条件に定めたとおり機関に譲渡すること。
- ※ 発生した利息を補助事業に使用した場合でも、「既受領額」や「支出済額」には含めないこと。

3. 補助事業廃止の発生日及びその理由

(1) 「発生日」

研究代表者が退職に伴う資格喪失等により研究ができなくなる時点の年月日(退職による応募資格喪失を理由とする場合は、退職年月日とする。)を入力すること。

(2) 「理由」

廃止する理由を具体的に入力すること(最大100文字)。

(3) 「応募資格の有無」

事実発生日以降の科研費応募資格の有無について、当てはまるものを選択すること。

(4) 「所属機関変更の確認」

所属機関の変更を伴わない廃止の場合にチェックを入れること(本欄にチェックを入れると、「変更後所属機関」の入力欄がグレーアウトとなり入力できなくなる。)

(5) 「変更後所属機関」

所属機関の変更を伴う廃止の場合であって、作成時点で変更後の所属機関が決まっている場合は可能な限り機関名を入力し、決まっていない場合は「なし」にチェックを入れること。